

アメリカ女子強豪ジュニアバレーボールクラブの育成の環境について

トップスポーツマネジメントコース

5016-307-1 鈴木 敦子

研究指導員 平田 竹男 教授

1. 序論

アメリカ女子バレーボール代表チームの世界大会における活躍は目覚ましく、2015年FIVB（国際バレーボール協会）ランキングにおいては1位にランキング、アンダーカテゴリーにおいてもFIVB U18 ランキングで1位の成績を挙げており、ジュニアの育成からシニアの強化まで連携のとれた強化構造で成功を取っている。

現在は、世界ランキング2位（2016年8月現在）であり、リオオリンピック準々決勝で日本を破り、最終的に銅メダルを獲得した。加えて、アメリカはバレーボール発祥の国であるが、競技成績が向上してきたのは2000年以降という特徴がある。

また、USAV（アメリカバレーボール協会）2013～2014年シーズン会員構成は、総数約36万人のうち、中学、高校年代の女子選手（ジュニア女子）が、78%（約28万人）と圧倒的な割合を占めており、構成員である選手の主な活動拠点は、地域のバレーボールクラブ及び、学校としている。このような構成比率から、アメリカのバレーボールの普及、育成、強化のあらゆる施策には、ジュニアクラブの存在が大きいことが窺い知れる。

2. 研究目的

アメリカの女子バレーボールの育成年代の活動拠点となっているジュニアバレーボールクラブに焦点を当て、強豪バレーボールクラブの実態と特徴を明らかにすることを本研究の目的とする。

3. 研究手法

テキサス州のTAV、Skyline、ケンタッキー州のKIVAで現地調査を行い、イリノイ州のSPVBにはメールでのインタビュー調査を行い、対象者はディレクター、コーチ、選手とした。（表1参照）

表1 インタビュー対象者

インタビュー対象者	役職	所属チーム
John Sample	President Director, Coach	TAV
Ping Cao	17's Head Coach	TAV
Jon Rye	Executive Director, Coach	Skyline
Courtney Robinson	Jr. Program Director, Coach	KIVA
Rick Butler	Owner Director, Coach	SPVB
Erik Vogt	Recruiting Coordinator, Coach	SPVB
選手 12名	15～18歳	TAV, KIVA, SPVB

4. 結果

(1) 対象クラブの概要

対象クラブの概要を項目ごとにまとめ、表2に示した。

表2 対象クラブの概要

チーム	TAV	KIVA	Skyline	SPVB
会社の形態	NPO法人			
成績	National Club Ranking Over 5year 1位	National Club Ranking Over 5year 2位	National Club Ranking Over 5year 3位	2016 18's Elite 1位
場所（本拠地）	テキサス州キャロルトン	ケンタッキー州ルイビル	テキサス州ブレイン	イリノイ州オーロラ
主な施設・設備	コート10面	コート6面	コート7面	コート8面
定期レッスン対象者	U11～U18	U10～U18	U11～U18	U12～U18
姉妹クラブ	計5	なし	計3	計4
人数	660名 (総計約1000名)	約450名	330名 (総計約600名)	600名 (総計約1200名)
コーチ人数 ※ ()内は専任コーチ数	60 (1) 名	90 (8) 名	75 (5) 名	140 (15) 名
スポンサー	NIKE	Asics	Adidas	MIZUNO
主な収入	レッスン料、キャンプ、クリニック、遠征、ウェア販売、コートレンタル等			

(2) 対象クラブの詳細

対象のクラブでは、設立のきっかけが現在のクラブの理念に繋がっていることや、AVCA（アメリカバレーボール指導者協会）の受賞履歴のある優秀なディレクターやコーチが所属していることがわかった。

(3) NPO法人としてのクラブ

全てのクラブはNPO法人として運営しており、会員数は、それぞれの本拠地で300名を超え、コーチの数も100名を超えるなど、大規模クラブであった。主な収入は、レッスン料などで、スポーツメーカーをスポンサーとしていた。メーカーは、それぞれ違いが見られたが、主な提供内容はほぼ同様であり、経営における収入源の違いなどは、特に見られなかった。

(4) クラブのビジョン

チーム（クラブ）の強みは、それぞれ独自に開発したプログラムであると自負しており、各クラブはポリシーとして、より良い環境の提供、勝利、大学進学へのマネジメントを挙げていた。

(5) 指導者について

各クラブのコーチは指導資格を必携としており、2年毎の更新を義務化している。主にパートタイマーで占めており、人数は60～140名在籍していた。パートタイマーのコーチの職業の多くは教員であり、一時間あたり15～20ドルの報酬を受けていた。

高校世代においては、クラブは近郊の高校とも連携しており、クラブと高校の指導を兼任しているコーチも多かった。

(6) 競技環境と指導方法

各クラブの指導指針と U12~U18 の年齢別指導ポイントを調査した。練習では、選手一人に対してのコーチ人数比率が高く、一クラス 10 人前後に対して、専門コーチが 2 名以上で対応していた。

指導方法に、特に大きな違いは見られなかったが、身体的特徴から、ブロックの技術、アタックまでの連携練習を早い段階から導入していた。また、ロジカルな考え方を養うため、試合中にはクラブ内、全てのチームが、タブレットを必携としていた。

(7) クラブの選手とクラブスケジュール

クラブへの加入は、主に近親者の活動歴や友人の誘いなどからが競技の開始理由であった。クラブシーズン中の主な練習間は 2~3 時間、週 2、3 回、土日は試合、別途週 1 回のトレーニングと、ハードな練習スケジュールをこなしていた。クラブの活動経費は、月に 500~800 ドルと高額な経費のもと、活動を行っていた。シーズン中のクラブのスケジュールは、平日は 17 時から 2、3 時間で各コート入れ替わりを行い、空きコートは、個人のオプション練習などで使用しており、密なスケジュールが組まれていた。

5. 考察

これまでの研究結果を基に、アメリカのジュニアクラブの構造を考察した。

(1) 高校年代における二つの活動拠点

アメリカ高校年代は「クラブ」と「高校」の二つの活動拠点があり、所属やチームのメンバーを変えて、試合経験と競争経験を積むことができることから、競技に対する適応力や、対応力が養成されているものと推察される。

(2) 競争のメカニズム（トライアウトの実施）

クラブ、学校、協会などでは、トライアウトによる選手のチームレベルと個人のランク付けが常に行われている。受講できるコースやクラス、出場可能な試合レベルにも影響し、大学進学実績に大きく関係する。このような競争のメカニズムは、個々の選手の競技向上心、競争に対する耐性を育成し、個々のパフォーマンス発揮に大きな効果をもたらしているものと考えられる。

(3) 専門指導者の配置

専門指導者の確保や指導者の資質の向上は、クラブ運営の根幹をなしており、経験のある専門指導者の存在があってこそ、練習環境と、質の高い練習の提供が可能になっている。調査対象の各クラブは、多数の専門指導者の確保が可能となっており、育成システムの構造の成立要因のとなっていると考えられる。日本におけるジュニア

の指導者においては、教員が中心となり、指導者講習会などを定期的に開催、指導力向上の施策を行っているが、様々な問題から指導者の確保にも限界がある。競技普及や強化において、専門的な指導者の確保は必要不可欠であり、今後の重要な課題となっている。

(4) アメリカにおけるジュニアクラブの位置づけ

ほとんどのジュニア世代のパレーボール選手の目標、憧れは、「大学進学」である。NCAA は、人生における多くの利益を得ることが可能な、いわばプロに加入するという感覚であり、選手にとってはステイタスとして、人生における目標となっている。

クラブの存在は、日本に置き換えると、「進学塾スポーツ版」となっており、選手に、競技を通じて、目標となる大学への道をつないでいる重要な役割を担っている場所であるといえる。

6. 結論

本研究にあたり、アメリカの強豪ジュニアパレーボールクラブの、以下の特徴が明らかとなった。

1) 練習環境が整備されており、全てのクラブがトレーニングルームと 6 面~10 面と多くの専用コートを持している。

2) 1 クラブにつき 330~660 人の選手が所属し、12 歳から 18 歳のそれぞれの年齢で複数のクラスに分けられている。そして、クラス間では、毎年のトライアウトによって入れ替えが行われる。

3) 各クラブは、スポーツメーカーがスポンサーについており、スポンサーは選手、コーチのウェアのディスカウント、主催大会の協賛（用具、商品の提供）を行っている。

4) クラブは、それぞれに年齢別指導指針を設定し、練習環境の提供、クラブの所属チームの勝利の獲得、多数の選手を大学パレーに輩出していくことを目的としている。

5) クラブの指導者は全員専門資格を持ち、2 年毎に更新を義務化している。コーチは、主にパートタイマーで占めており、人数は 60~140 名在籍していた。パートタイマーのコーチの職業の多くは教員であり、一時間あたり 15~20 ドルの報酬を受けている。

6) 高校世代においては、クラブは近郊の高校とも連携しており、一部の選手、コーチは両方を拠点に活躍している。

7) 選手の目標は、競技を通じて大学に進学することであり、クラブはカレッジショーケースなどのイベントを定期的に開催し、大学と選手を結ぶ機会を設けている。

8) 選手のクラブ活動による費用は、クラブシーズン中一ヶ月につき 500~1000 ドル（半年で 6000 ドル弱）となっており、高額な経費負担のもと競技活動を行っている。